

都市再生整備計画 事後評価シート

さ さ ち く
佐々地区

平成31年3月

ながさきけん さ さ ちょう
長崎県 佐々町

様式2ー1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名		佐々町		地区名		佐々地区			面積		943 ha	
交付期間	平成26年度～平成30年度		事後評価実施時期		平成30年度		交付対象事業費		574 百万円		国費率		0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設 緑地、広場（でんでんパーク☆さざ） 地域生活基盤施設 地域防災施設（総合防災システム構築） 地域生活基盤施設 地域防災施設（避難情報等表示板設置）												
		提案事業	事業活用調査 事業効果分析調査												
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	道路（町道牧崎市場線）				商業施設の進出が具体的な計画までに至らなかったことや、土地所有者の合意形成が困難な状態であるため削除。				本事業の削除を踏まえ、指標1「安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度」の目標値57.0%を2ポイント下げた。				
		提案事業	地域創造支援事業（雇用促進住宅購入） 地域創造支援事業（武道館資料館建設事業） 地域創造支援事業（河川監視カメラ設置）				雇用促進住宅購入は、関連事業として実施。武道館資料館建設事業は、内容名称を変更し、基幹事業高次都市施設として整備。河川監視カメラ設置は、河川管理者である長崎県が監視カメラを設置予定であることから削除				なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設 駐車場（でんでんパーク☆さざ） 高次都市施設（地域交流センター）				でんでんパーク☆さざの緑地、広場と駐車場部分を別事業として分離。※事業費のうち交付対象算定方法が異なるため。 地域交流センターは、当初提案事業としていた武道館資料館建設を基幹事業として位置づけたもの。				なし				
		提案事業	地域創造支援事業（防災減災対策事業）				基幹事業の基礎資料となる避難所について災害種別毎に適正評価を行い、その解析結果をハザードマップに掲載する。「住民の防災知識の向上（ソフト事業）」を防災減災対策事業（提案事業）で実施し、災害に強いまちを目指すもの。				本事業の追加を踏まえ、指標1「安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度」の目標値57.0%を1ポイント上げた。				
交付期間の変更	当初	平成26年度～平成30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）		フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	指標1	安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度	%	49.3	22	56.0	30		57.1	○	あり なし	防災行政無線のデジタル化、ハザードマップ作成などの施策実施により、住民の満足度が高まった		平成31年度	
	指標2	将来目標人口	人	13,600	22	13,600	30		13,963	○	あり なし	西九州道開通による交通利便性向上、町の福祉施策充実等が考えられるが、本計画事業の整備による効果とは必ずしも言えない。			
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）		フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値								
	その他の数値指標1	地域交流センター年間利用者数（従前値：旧武道館）	人/年	12,401	19			18,053	16,200			様々な催しの開催が可能となり、利用者が増加している。			
	その他の数値指標2	でんでんパーク☆さざ年間来場者数	人/年	15,287	25			22,450	24,000			利用しやすい環境が整ったことで町内外住民の交流促進や町のイメージアップに繋がっている。			
4)定性的な効果発現状況	その他の数値指標3		自主防災組織率	%	46.5	25			100			住民主体の防災まちづくり活動の気運が高まった。			
	・防災行政無線のデジタル化、機器の更新をしたことにより、情報未伝達地域の解消が図られ、対象地域の安心が確保されている。 ・でんでんパーク☆さざへは周辺地域からの利用も見られており、町内外住民の交流促進や町のイメージアップにつながっている。														
	実施内容														
	実施状況														
5)実施過程の評価	モニタリング		佐々町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び第6次佐々町総合計画・後期基本計画策定時（平成27年5月）に、町民意識調査（アンケート）を行い、町の施策に対する評価を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				平成32年度までを計画期間とする第6次佐々町総合計画の改定に向け、平成32年度中に町民意識調査を行い、町民満足度の変化を継続的にモニタリングし、施策の見直しに反映させていく。				
	住民参加プロセス		佐々町は平成27年度に「佐々版生涯活躍のまち構想」を策定し、同構想を推進するための地域住民や団体等からなる「生涯活躍のまち推進会議」を設置し、住民参加による検討を行った。防災マップ作成時には、町内会長への説明会を開始し、意見交換を行った。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後は、町内会長連絡協議会、関係団体との協議や意見交換などを通じて、施設の利便性向上を図り、有効利用及び住民間交流の拡大を図る。				
	持続的なまちづくり体制の構築		佐々川を活かした地域活性化事業の構成を策定するために結成された佐々川流域会議で、町の活性化に向けた検討や町民のまちづくり活動促進、参画機会の充実を図っている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				「佐々川流域再生会議」を継続して行うとともに、第6次佐々町総合計画の改定に伴い、町民ワークショップ等を開催し、積極的に住民の想いを反映させる手法を検討する。				

佐々地区(長崎県佐々町)都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標:安全・安心なまちづくりのための環境整備を行い、定住人口・交流人口の促進を図る。 小目標①:防災情報等の収集、伝達、共有機能等の強化。 小目標②:住環境の整備。 小目標③:交流の場の形成。	安全な暮らしづくり施策に対する町民満足度	単位: %	49.3	H22	56.0	H30	57.1	H30
	将来目標人口	単位: 人	13,600	H22	13,600	H30	13,963	H30
	公共施設整備に対する町民満足度	単位: %	41.7	H22	52.0	H30	48.7	H30

でんでんパーク☆さざ

でんでんパーク☆さざトイレ

■基幹事業

地域生活基盤施設 緑地、広場

でんでんパーク☆さざ整備事業

■基幹事業

地域生活基盤施設 駐車場

でんでんパーク☆さざ整備事業

でんでんパーク☆さざ駐車場

○関連事業

雇用促進住宅購入事業

雇用促進住宅

佐々町観光情報センター

県道佐世保鹿町線

佐々工場団地(小浦)

県道佐々鹿町江迎線

佐々バスセンター

佐々町夜場

西九州自動車道路

国道204号

計画区域(佐々地区) 町全域

佐々工場団地(神田)

地域交流センター

○関連事業

地域生活基盤施設(地域防災施設)

総合防災システム構築

■基幹事業

地域防災施設

総合防災システム構築(設計費)

■基幹事業

地域防災施設

避難情報等表示板設置事業

□提案事業

地域創造支援事業

防災減災対策事業

□提案事業

事業活用調査

事業効果分析調査

凡 例

■ 基幹事業

□ 提案事業

○ 関連事業

防災行政無線

避難所

避難情報表示板

佐々町総合ハザードマップ

ハザードマップ

まちの課題の変化

本事業の実施結果及び実施過程において、施設のリニューアルによる交流の場の拡充など一定の成果があがったが、今後は目標とした防災機能の充実強化及び住環境の整備を一層推進し、町民の安全・安心確保・向上を図るとともに、町民活動の活発化促進、周辺地域との連携による産業振興など、活気あふれる地域づくりを展開していくことが課題である。特に、浸水被害や土砂災害からの防災・安全性を高める施設整備の強力な推進及び、周辺市町との役割分担や特性の違いを明確にした、個性豊かで魅力的なまちづくりを展開し、交流人口を拡大していくことが課題となる。

今後のまちづくりの方策
(改善策を含む)

災害への関心及び防災・減災意識の高まりを踏まえ、配布した防災マップ及び総合ハザードマップなどの周知活用を図るとともに、自主的な避難行動などの「災害への備え」についての啓発や避難訓練の実施、消防団の強化など官民が連携した防災体制づくりを進める。また、今佐々町が進めている佐々川を核とした「地域づくり」において、「流域」という視点に立って、本町の防災・減災への取組を含めた「安全・安心なまち佐々」を町内外に発信し、「住みよいまち」として定住人口の増に結び付けていく。
 地域交流センターなどの公共施設のリニューアル整備による利用者増をさらに拡大するとともに、町内外住民の交流の活発化、交流人口の拡大に結び付けていく。このため、指定管理者制度の活用の検討など住民参画機会の拡大など運営体制の強化を図るとともに、自主企画の充実などに取り組む。でんでんパーク☆さざについて、隣接する町地の有効活用や近接する佐々川の環境を活かした、施設一帯の総合公園化など魅力づくりを進めるとともに、その他の都市公園や農業体験施設の適切な管理、有効活用により、多くの人に利用される公園・緑地としていく。
 併せて、継続的な課題となっているまちなか町有地の有効活用などに引き続き取り組み、コンパクトな賑わいのあるまちづくりを図っていく。